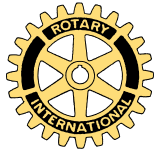


THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2024～2025年度 国際ロータリー ステファニー・A. アーチック 会長テーマ

THE MAGIC OF ROTARY ロータリーのマジック

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL <0566>22-2111
FAX <0566>25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 内藤 昇
幹事 磯部 一智
会報委員長 花井 淳

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3263回例会プログラム

[当年度=22回目；当月=4週目]

2025年（令和7年）1月27日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:10 〈食 事〉
12:28 1. チャイム
12:30 2. 点 鐘……〈会 長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 会長挨拶並びに会長報告
7. 幹事報告
8. 出席報告
※第2四半期皆出席の発表（出席委員会）
9. 委員会報告
10. ニコニコボックス報告
11. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(2/3) ……
クラブフォーラム（国際奉仕委員会）
講師 元米山奨学生
ウプレティ・レサム・バハダル 様
(ネパール)
(紹介者 出口 達也 会員)
(2/10) ……
クラブフォーラム（IM 実行委員会）

2. クラブフォーラム……………〈研修情報委員会〉

- 13:00 卓話「モータースポーツをビジネスにする挑戦」
講師 トヨタ車体株式会社
総務部広報室ダカールラリー推進グループ
グループ長兼ダカールラリードライバー
三浦 昂 様
(紹介者 山下 雅則 会員)
12. 謝 辞
13. 点 鐘……〈会 長〉
14. 閉会宣言
13:30 15. 散 会

出席

会員総数 95名 出席免除 24名
出席義務者+免除者の内例会出席者 87名
欠 席 13名 出席率 85.05%
前々回（1/9）の修正出席率 100%

会長報告

- 1) 1月23日、刈谷青年会議所65周年賀詞交歓会に出席して参りました。

幹事報告

- 1) 本日例会終了後に特別会議室にて、第8回の理事会を開催致します。関係の会員はご出席をお願い致します。

会長あいさつ

内藤 昇



今日は1月27日 国旗制定記念日です。

1870年の旧暦1月27日（新暦では2月27日）、明治政府が日の丸を国旗とする太政官布告商船規則により、国旗のデザインと規格を示したことに由来します。

日本の国旗・日の丸は、さし昇る太陽を型どったものです。太陽の光や熱は、すべての生き物が生きていくのになくならないものであり、命の源とされています。この自然の恵みを「ありがたい」と感謝する日本人の心を表しています。

日の丸の「白」は、清くけがれのない気持ちで生活したいという日本人の生き方を表し、「赤」は、偽りのない真心を表しています。

日の丸が歴史に登場するのは、今から約千三百年前、大宝元年（西暦701年）文武天皇の時代、朝廷の元旦の行事で用いられたのが起源だとされています。

それが日本を代表する旗として登場するようになった

のは、日本が近代の国際社会に参加した時でした。当時、外国が日本に国交を求めて頻繁に来航し、外国船と日本の船とを識別することが必要になっていました。そこで薩摩藩主・島津斉彬らが幕府に建議し、幕府はこれを入れて安政元年（西暦1854年）、「異国船に紛ぎれざるように日本総船印は白地に日の丸幟のぼり」と決めました。明治の新政府も明治三年（西暦1870年）、改めて日の丸を「国旗」として布告しました。

1999年8月9日には、「国旗及び国歌に関する法律」が成立し、同年の8月13日に公布・即日施行後は日の丸と君が代が国旗と国歌として法制化されました。

日本の国旗の縦横の比率は2：3、日の丸は旗の中心の位置で、直径は縦の長さの5分の3、色地は白色、日の丸は紅色といった規定があります。

2025年の米野球殿堂入りが日本時間22日に発表され、資格1年目のイチロー氏（51、マリナーズ会長付特別補佐兼インストラクター）が、栄えある日本人初の殿堂入りを果たしました。大リーグ・専門局『MLB ネットワーク』の番組内で発表され、米国野球殿堂博物館のジョシュ・ラウィッチ館長が殿堂入り選出者をアナウンス。MLB史上2人目、さらには野手史上初の“満票”での殿堂入りが期待されましたが、2020年のデレク・ジーター氏（ヤンキース）と同じく満票に“わずか1票”及ばず、得票率は99.7%でした。

この日（現地21日）、シアトルで殿堂入り決定の電話を受けたイチロー氏。16日には日本での殿堂入りを果たし、その6日後に、日本人初、さらにはアジア人初となるMLBの殿堂入り。日米ともに資格初年度で“同時殿堂入り”の快挙を達成しました。

大リーガーの中で殿堂入りできる確率は約1.3%とごくわずか。殿堂入りすること自体が難しいそうです。米野球殿堂入りは、メジャーで10年以上プレーした選手が引退から5年で資格を得ることができます。2019年3月に現役引退のイチロー氏は、2024年に資格を獲得。全米野球記者協会に10年以上連続で所属する約400人の記者が投票し、有資格者（今年は28人）から最大10人まで投票可能で、75%以上の得票で殿堂入りとなります。

イチロー氏は2000年オフにポスティングシステムでマリナーズに入団。以降、ヤンキース（12年夏～14年）、マーリンズ（15年～17年）でプレー。18年にはマリナーズに復帰して2019年に現役引退を迎えました。

2001年のルーキーイヤーではいきなりシーズン242安打をマーク。日本人初の首位打者と盗塁王を達成し、MLB史上2人目となるリーグ MVP と新人王のダブル受賞に輝きました。2004年にはMLBのシーズン最多安打記録を84年ぶりに更新する262安打をマーク。20年を過ぎた現在もいまだ破られていない大記録となっています。

殿堂表彰は1936年に始められ、24年まで選手としては275人が殿堂入り。過去に日本人選手は野茂英雄氏、松井秀喜氏が有資格者となったが、イチロー氏が日本人初の栄誉に輝きました。

【イチロー氏 メジャーでの主な功績】

- ルーキーイヤーで最多安打、新人王&リーグ MVP を獲得（2001年）
 - メジャー新記録の年間262安打（2004年）
 - デビューから10年連続200本安打
 - 史上30人目の3000安打（1900年以降では最年長）
 - 日米通算4367安打の大記録
 - オールスターゲームで史上初のランニング HR で MVP（2007年）
 - 初年度から10年連続ゴールドグラブ賞
- 最近の日本人のプロのスポーツ選手はイチローに負けないくらいの活躍をしてくれています。ボクシングの井上尚弥選手、ゴルフの松山英樹選手、そして大谷翔平選手。益々の活躍を期待したいです。

クラブフォーラム

卓話「モータースポーツをビジネスにする挑戦」

講師 トヨタ車体株式会社
総務部広報室ダカールラリー推進グループ
グループ長兼ダカールラリードライバー
三浦 昂 様



1. ダカールラリーとは？

ダカールラリーは1979年の初開催から40年以上の歴史を持つ大会です。もともとはヨーロッパ～アフリカ大陸を舞台とし、冒険として始まりました。その後、政情不安などの社会問題により、舞台を南米大陸、現在は中東に移しています。その長い歴史の中で『世界一過酷なモータースポーツ』として成長し、2週間8,000kmにわたり、壮大な自然環境の中で競われます。今でも冒険要素が残されており、ラリー期間中の生活はテント生活を基本とするキャンプスタイルです。

2. ダカールラリーの舞台に挑戦するきっかけと変化

私がこのダカールラリーに挑戦するきっかけとなったのは、トヨタ車体の運営するラリーチームのナビゲーター（ドライバーの横に同乗し、道案内等をする役割）を代々当社で働く社員から選抜するという社員公募システムに応募したことでした。私は入社2年目にチームに参加し、07年大会で初参戦を迎えますが、プロスポーツの世界でどう仕事をすればよいのか分からず、迷いの中にいました。それでも、挑戦を続ける中で、16年大会からドライバーへ転向する機会を得ました。18年大会で初優勝という幼いころからの夢が叶うも、満足感に満たされたわけではなかったという正直な気持ちがその後の仕事に大きく影響していきました。

3. ラリーから生まれたランドクルーザー

この初優勝から約半年後、当時トヨタ自動車社長で

あったモリゾウこと現豊田会長とのラリー車開発を目的とする合同テストが実現します。この時にモリゾウさんが話してくれた『私はレースに出ているが、レース参戦だけをしているわけではない。』という言葉きっかけに自身の社員としてのドライバー活動について考えるようになりました。ラリーに勝ちたいという思いから、ダカールラリーを通して『もっといいクルマづくり』を大義名分ではなく、現実の形にしたいという思いが原動力に変化していきました。その中で多くのチャレンジの機会に出会い、ランドクルーザー 300シリーズ、250シリーズの開発にも参加させて頂きました。今は誰よりもクルマを走らせ、ラリーの中で出会う『もっと』を見つけるためにダカールラリーを戦っています。ダカールラリーの優勝は、未来のランクルづくりのための通過点なのです。社員としてモータースポーツを通してビジネスに関われていることに感謝しています。

